

事業評価結果(課・室)総括表

事業年度 令和 8年度

部局名 エネルギー環境部

所属名 環境政策課

(単位:千円)

事業名	福井県長期ビジョン における位置づけ	経費 区分	事業 開始 年度	事業 終了 年度	予算額	決算額	財源内訳			評価区分
							国庫	その他 特定 財源	一般	
ふくいの未来へつなぐ環境学習事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和5年度	令和9年度	3,328	—		3,328		継続
大学生のエコラーニング事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和5年度	令和9年度	2,486	—		2,486		継続
㊦クリーンアップふくい大作戦事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和元年度	令和9年度	2,311	—		2,311		拡充
家庭の省エネ(デコ活)推進事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和5年度	令和9年度	29,060	—		28,004	1,056	縮減
気候変動適応化情報提供事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和6年度	令和9年度	795	—		795		継続
㊦環境基本計画策定事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和8年度	令和9年度	2,474	—			2,474	—
㊦中学生・高校生の環境保全活動応援事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和8年度	令和9年度	1,000	—		1,000		—
県内汽水湖の水質動態に関する研究	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和7年度	令和9年度	23,563	—	23,563			継続
化学物質対策調査研究事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和6年度	令和8年度	8,310	—	8,310			継続
再エネ促進区域設定に関する環境配慮基準策定事業	15 豊かで美しいふくいの環境の継承	政策的経費	令和7年度	令和7年度		—				完了
					73,327		31,873	37,924	3,530	

		エネルギー環境部	環境政策課（エネ部）	事業年度	令和8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和5年度
ふくいの未来へつなぐ環境学習事業				事業終了年度	令和9年度
事業目的	<p>昨今の異常気象やさまざまな自然災害の甚大化などの多発により、将来の不安が高まっており、脱炭素社会や持続可能な社会を構築するためのさまざまな取組みが進められている。そこで、将来の地域社会の担い手となる子どもたちが、県内で進められている環境に配慮した取組みや技術を見て、聞いて、体験して学ぶことで、環境問題の解決に向けて理解と関心を高める。</p>				
事業内容	<p>(1) 小学生対象の学習会 県内の環境に配慮した先進的な取組みや、環境保全に寄与する技術を有する企業・団体の協力を得て、小学生を対象にした環境について学ぶ体験活動と座学をセットにした学習会を開催する。 【実施回数】 年6回（7月～8月の夏休み時期） 【対象者】 小学4年生～6年生、各回20人 【内 容】 環境問題に対する適応策や持続可能な社会に向けた取組みについて学ぶための学習会 体験活動 ⇒ 環境に配慮した取組みに係る体験（工作など） 座 学 ⇒ 協力企業・団体の取組みや製品等の説明、工場見学など</p> <p>(2) 教職員対象の職員研修 教職員を対象にカーボンニュートラルに関する指導者研修を実施し、学校現場における環境教育の充実を図る。 【実施回数】 年2回 【対象者】 県内教職員（小中高） 【内 容】 地球温暖化や気候変動に関する教職員研修を実施</p>				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	3,328	—		3,328	
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	学習会に参加する児童数(人)	120	83	令和7年度
	活動指標	学習会を開催する法人数(法人)	2	3	令和7年度
事業評価	<p>「見て、聞いて、体験する」ことをテーマに、体験と座学を1セットとした学習会を開催した。参加した児童については環境への意識が高まったが、成果指標は目標を達成できなかった。 <事業による要因> 参加者のニーズの把握が不十分だったため。 <外的要因> 当日の体調不良で参加者数が減ったため。 <事業実績> 学習会の実施回数 6回（坂井市、大野市、敦賀市）</p>				
区分	継続				

		エネルギー環境部	環境政策課（エネ部）	事業年度	令和8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和5年度
大学生のエコラーニング事業				事業終了年度	令和9年度
事業目的	SDGsの達成や脱炭素社会の構築に向けて社会が大きく変化していく中で、環境問題について考え自発的に行動できる人材や、将来の環境活動を担う人材の育成が必要である。このため、大学生等を対象に地球温暖化などの環境問題について考えるラーニングイベントを開催し、昨今の環境にまつわる社会の変化や取組みを学び、環境に対する理解と関心を高める。				
事業内容	<p>大学生等を対象としたワークショップの開催 学生が「出会い」や「つながり」への関心を高める年度初めや長期休業中などの時期に、学生同士の交流の場を提供しながら、環境について学ぶワークショップを開催する。昨今の環境にまつわる社会の変化等について体験活動を通して学び、若者の環境に対する意欲・関心を高める。</p> <p>【実施回数】 年3回 【対象者】 県内の大学生、大学院生、短大生など 各回30名 【内容】 環境の各分野について野外活動を伴うワークショップを開催</p>				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2,486	—		2,486	
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	ワークショップに参加した学生数（人）	90	68	令和7年度
	活動指標	ワークショップの開催数（回）	3	4	令和7年度
事業評価	<p>学生に交流の場を提供しながら、環境について学ぶワークショップを開催した。参加者の環境に対する意欲・関心を高めることはできたが、成果指標は目標を達成できなかった。</p> <p><事業による要因> 参加者のニーズの把握が不十分だったため。</p> <p><事業実績> ワorkshop実施回数 4回（小浜市、大野市、坂井市（2回））</p>				
区分	継続				

		エネルギー環境部	環境政策課（工ネ部）	事業年度	令和8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和元年度
㊦ クリーンアップふくい大作戦事業				事業終了年度	令和9年度
事業目的	<p>福井の豊かで美しい自然環境を守るため、県民・企業・行政等による自主的な環境美化活動「クリーンアップふくい大作戦」を推進し、県民一人ひとりの環境美化および環境保全に対する意識の向上を図る。</p> <p>また、令和4年度に「ふくい海ごみゼロチャレンジ」を開始し、現在全市町で展開しているが、依然として多くの海ごみが確認されていることを踏まえ取組みを強化する。</p>				
事業内容	<p>(1) 河川等における環境美化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井県内河川等において、上流域から下流域までの地域住民や企業・団体等の参加を呼びかけ、県全体で一体となった清掃活動を展開 ・各市町で1か所以上の実施を目指す <p>(2) 市町が実施する河川・海岸等での清掃活動活性化の取組みへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助率 1/2（市町1/2） ・補助上限額 500千円 ・3市町を想定 				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2,311	—		2,311	
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	クリーンアップ大作戦事業者参加者数（人）	40,000	33,386	令和7年度
	活動指標	ゴミ拾いイベント参加者数（人）	20,000	17,593	令和7年度
事業評価	<p>河川・海岸等の清掃を県内全域で実施することができたが、成果指標および活動指標は令和7年度見込みにおいて目標を達成できなかった。</p> <p><外的要因> 悪天候により参加者が減少した活動があったため。</p> <p><事業実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ拾いイベント実施回数（2月末時点） 37回 ・実施市町数 17市町 				
区分	拡充				

		エネルギー環境部	環境政策課（エネ部）	事業年度	令和8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和5年度
家庭の省エネ（デコ活）推進事業				事業終了年度	令和9年度
事業目的	平成30年度から令和4年度まで県民への省エネ活動普及促進事業を実施してきたが、令和4年度実施県民アンケートの結果によると積極的に省エネ行動をとっていると答えた割合が、目標の50%に対して、32%だった。これを受けて、省エネの具体的な行動へ移れるような取組みを実施し、カーボンニュートラル社会に向けた県民の行動変容を推進する。				
事業内容	<p>(1) デコ活ふくいの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度から運用を開始したアプリ「ふく eco」の利用者増加を目的としたキャンペーンの企画・実施 省エネ等を促進するキャンペーンの企画・実施 マスメディア（テレビ・HP・新聞等）を利用した普及啓発 学校、イベント等でのデコ活に関する若者向けトークイベントの実施 ふくecoアプリの運用（アプリで公開する動画コンテンツの作成、景品の準備・配送、問い合わせ対応等） ふく eco アプリ利用者のさらなる行動変容を促すアイデアの公募 <p>(2) アプリの保守</p> <ul style="list-style-type: none"> ふくecoアプリの保守（長期継続契約） 				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	29,060	—		28,004	1,056
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	うちエコ診断参加者数（人）	120	292	令和7年度
	活動指標	うちエコ診断ブース設置回数（回）	10	10	令和7年度
事業評価	<p>成果指標のうちエコ診断参加者数を目標どおり達成し、カーボンニュートラル社会に向けた県民の行動変容に資することができた。</p> <p><事業実績></p> <p>うちエコ診断ブースの設置 市環境フェア等 8回 県立図書館パネル展 2回</p>				
区分	縮減				

		エネルギー環境部	環境政策課（エネ部）	事業年度	令和8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和6年度
気候変動適応化情報提供事業				事業終了年度	令和9年度
事業目的	地球温暖化による悪影響を防止するためには、気候変動による影響に対して被害の回避・軽減に取り組む「適応策」が重要であり、適応策を推進するためには県民や事業者の意識醸成が必要である。本事業により、情報提供体制を強化し、県民の気候変動適応に関する理解度の向上と取組みの推進を図る。				
事業内容	(1) パネル展の実施 気候変動の影響と適応について、県民の理解度を高めるため、図書館や市町主催のイベントなどでパネル展を開催する。 (2) センター通信「ふくてき」の発行 県内の気候変動に関する情報を整理した情報誌「ふくてき」を冊子印刷し、県関連施設や図書館に配架する。 (3) 適応策の普及啓発 適応策に関する品を「ふくてき」に添付し、イベント等で配布する。				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	795	—		795	
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	気候変動適応センターのHP閲覧数（件）	1000	1000	令和7年度
	活動指標	センター通信の発行回数（回）	4	4	令和7年度
事業評価	センター通信やパネル展の実施等を通じて、気候変動適応に関するPRおよび理解度の向上を図り、令和7年度見込みにおいて成果指標のHP閲覧数を目標どおり達成。 <事業実績> パネル展の実施 市環境フェア等 5回 県立図書館 2回				
区分	継続				

		エネルギー環境部	環境政策課（エネ部）	事業年度	令和8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和8年度
⑨ 中学生・高校生の環境保全活動応援事業				事業終了年度	令和9年度
事業目的	中学生・高校生を対象として、自然を守るための実践活動や環境に関する活動を支援することで、環境保全活動に対する学びを深化させるとともに、環境保全活動に参加する裾野を広げる。また、若者の活動が活性化することにより、県の環境教育の発展にもつなげる。				
事業内容	<p>中学生や高校生が参加する、部活動やサークル活動などにおいて、環境保全や温暖化対策に資する実践活動を行う場合に支援を行う。</p> <p>【支援内容】 200千円（定額）／団体 5団体想定</p> <p>【対象】 県内の中学生・高校生が参加する団体（部活動やサークル等）で、代表者となる成人を含め4人以上で構成されるもの。</p> <p>【対象活動例】</p> <ul style="list-style-type: none"> リサイクル 企業と連携して不用品をアップサイクルして、文化祭で販売 省エネ・再エネ エネルギーの仕組みを調べ、地域で発表 環境美化 海・山・川のクリーンアップと組成調査 自然調査 地域に固有の生き物の生態調査 自然観察・体験 ウニ等の環境問題を引き起こす動物駆除や海藻の再生 				
予算・決算額 （単位：千円）	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	1,000	—		1,000	
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	活動報告会の参加・視聴人数（人）	100	—	令和8年度
	活動指標	支援団体数（団体）	5	—	令和8年度
事業評価	—				
区分	—				

		エネルギー環境部	環境政策課（エネ部）	事業年度	令和8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和8年度
⑨ 環境基本計画策定事業				事業終了年度	令和9年度
事業目的	本県の環境保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、福井県環境基本条例第11条の規定に基づき、令和10年度を計画開始年度とする新たな福井県環境基本計画の策定に向けアンケート調査を実施する。				
事業内容	県民等の意見聴取を実施				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2,474	—			2,474
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	福井県環境基本計画の策定（件）	1	-	令和9年度
	活動指標	アンケート調査の実施（回）	1	-	令和8年度
事業評価	—				
区分	—				

		エネルギー環境部	環境政策課（エネ部）	事業年度	令和8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和7年度
県内汽水湖の水質動態に関する研究				事業終了年度	令和9年度
事業目的	湖水流動・水質分布を三次元的に調査・解析し、流入水・湖水の流れや滞留がどのように水質に影響しているかを把握・評価する。				
事業内容	(1) 多点の水質データ収集 ・調査内容（間隔、深度、項目等）の検討 ・フィールド調査 (2) 三次元的な水質評価と流動解析 ・解析評価方法の検討 ・水質の可視化、流動解析				
予算・決算額 （単位：千円）	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	23,563	—	23,563		
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	成果の累計外部発信件数（件）	1	1	令和7年度
	活動指標	累計試験件数（件）	2	2	令和7年度
事業評価	研究内容や研究成果等を学会にて発表し、成果指標の外部発信件数を目標どおり達成した。 <事業実績> (1) 多点の水質データ収集 水質測定機器の整備 流速計、水位計等の整備 (2) 三次元的な水質評価と流動解析 解析評価方法の情報収集、検討 可視化ソフトの整備				
区分	継続				

		エネルギー環境部	環境政策課（エネ部）	事業年度	令和8年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和6年度
化学物質対策調査研究事業				事業終了年度	令和8年度
事業目的	<p>事前に登録された化学物質の分析データベースから化学物質を推定、定量する技術による調査手法の導入を検討し、多種多様な化学物質の一斉スクリーニング手法を確立する。これにより県内の化学物質の実態を網羅的に把握するとともに、化学物質の安全情報の適切な発信の在り方を合わせて検討する。</p>				
事業内容	<p>(1) 一斉分析法の構築 ・一斉分析法の検討および環境試料の試行 (2) 環境調査および解析 ・県内主要河川を対象に、種類を特定せず多様な化学物質の実態を調査 ・検出物質の種類の把握、地域性や季節変動の解析、土地利用との関連を解析 (3) リスクコミュニケーションへの活用方法の検討 ・一斉分析法と実態調査結果のリスクコミュニケーションへの活用方法を検討</p>				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	8,310	—	8,310		
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	成果の累計外部発信件数（件）	1	1	令和7年度
	活動指標	累計試験件数（件）	2	2	令和7年度
事業評価	<p>研究内容や研究成果等を学会にて発表し、成果指標の外部発信件数を目標どおり達成した。 <事業実績> (2) 環境調査および解析 ・県内主要河川を対象に、種類を特定せず多様な化学物質の実態を調査 ・検出物質の種類の把握、地域性や季節変動の解析、土地利用との関連を解析</p>				
区分	継続				

		エネルギー環境部	環境政策課（エネ部）	事業年度	令和7年度
4 住みやすさを高める（地域力）				経費区分	政策的経費
15 豊かで美しいふくいの環境の継承				事業開始年度	令和7年度
再エネ促進区域設定に関する環境配慮基準策定事業				事業終了年度	令和7年度
事業目的	地域の自然的社会的条件に応じた環境の保全に配慮した本県独自の環境配慮基準を定めることにより、市町が再エネ促進区域を設定する際や事業者が事業計画を検討する際の重要な指針とする。また、県内地図において視覚的にかつ詳細にゾーニングを行い、エリア情報を丁寧に市町や県民に提供することにより、本県の促進区域の設置の促進、引いては再エネ導入の促進につなげる。				
事業内容	地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の別冊版を作成 (1) 別冊本文の作成 ・環境政策課職員にて対応 (2) 地図作成業務 ・県内の自然公園や地すべり防止区域等の規制地図データの取り込みおよび加工 (3) 地図閲覧編集システムの利用 ・上記(2)で作成したデータを職員が閲覧および編集できるクラウドGISシステム				
予算・決算額 (単位：千円)	予算額	決算額	国庫	その他特定財源	一般財源
	2,876	—	2,156		720
事業評価指標	内 容		目標	実績	備考
	成果指標	環境配慮基準の策定（件）	1	1	令和7年度
	活動指標	環境審議会等の開催回数（回）	3	3	令和7年度
事業評価	ゾーニングマップを作成し、環境審議会にて審議を重ね、成果指標の環境配慮基準の策定件数を目標どおり達成した。				
区分	完了				